

国立がん研究センターが橋渡し研究支援機関として認定されてから3年目を迎えました。この節目を迎え、橋渡し研究支援の中心的な役割を果たしている橋渡し研究推進センターの取り組みを紹介すると同時に、シーズ開発における主要な課題とその解決策に焦点を当てた議論を深めるシンポジウムを開催いたします。

14:00～ 理事長 挨拶
中釜 齊



来賓挨拶 稲垣 治 AMED 橋渡し研究プログラム プログラムオフィサー
AMED 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム プログラムオフィサー

14:15～
Highlight 1

第1部 拠点活動報告



土井 俊彦
橋渡し研究推進センター
センター長

始動から3年：私たちの歩みとシーズ開発への展望

国立がん研究センターはアカデミアシーズの橋渡し支援のために、2021年7月に橋渡し研究推進センター(CPOT)を設置し、同年12月に橋渡し研究支援機関として認定されました。

始動から3年となる私たちの歩みを振り返り、現在までのシーズ発掘・支援・開発活動を報告いたします。CPOTでは一貫して「バックキャスト型(出口指向)」のシーズ開発支援を行っています。新しい橋渡し研究支援機関であり、基礎シーズから実用化に繋がったシーズ開発の実績はまだありませんが、私たちのシーズ開発への展望を紹介いたします。

14:35～
Highlight 2
対話を通じた個別化支援
PM座談会

第2部 Project Managerの伴走支援とは

座長



都賀 稚香
橋渡し研究推進センター
プロジェクトマネジメントチームリーダー



太田 大地



野村 久祥



五十嵐 美德



石井 琢也

プロジェクト
マネージャーの
リアルトーク

悩める孤独な研究者の、客観的で前向きな伴走者でありプロジェクトマネジメントの手法は組織の数だけあると言われていています。ここでは、CPOT PMが提供する「研究者と二人三脚で進む支援」の在り方について紹介します。座談会では、PMが研究者そして研究課題にどのように向き合い、当事者意識をもった支援を行うための試行錯誤、工夫、課題の乗り越え方など、PMのリアルな取り組みをお聞きください。「対話力」をキーワードとした、CPOT PMが目指す個別化支援について、研究者・支援者共に考え理解を深める機会になれば幸いです。

15:50～

Highlight 3

第3部 パネルディスカッション

座長



土原 一哉
橋渡し研究推進センター
拠点統括



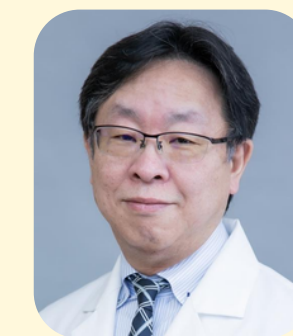
桑木 織葉
MedVenture
Partners株式会社
シニアマネージャー



山元 崇
再生医療
イノベーションフォーラム
CDMO部会長
(帝人株式会社)



佐藤 暁洋
東病院
臨床研究支援部門
部門長



土井 俊彦
橋渡し研究推進センター
センター長

CPOTエコシステムでイノベーションギャップを克服する

せっかくのアカデミアシーズがイノベーションギャップに埋もれてしまう、これを解決するには何が必要なのか? 「研究者のアントレプレナーシップの欠如」と精神論に落とし込む前に、ギャップが生まれるメカニズムを知り、それを産学連携で解決する方策を見つけたいと思います。

研究開発早期からの事業化戦略・知財戦略の介入、クオリティバイデザインに基づく現実的かつ国際競争力を持った規格設定など、これまで多くのアカデミアシーズをサポートしてきたCDMO、VC、アカデミア支援部門のエキスパートにご参加いただき、CPOTの目指す方向性を議論します。

16:45～

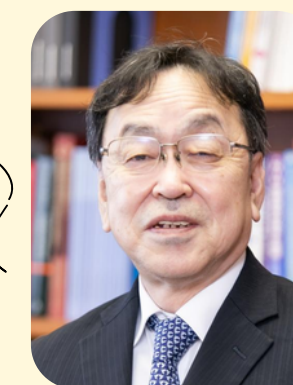
Highlight 4

交流会

ネットワーキング

参加者の皆様と交流を深めることを楽しみにしております。演者への質問やCPOTへのご意見や要望などぜひお聞かせください。

両病院長による
特別コメントあります



大津 敦
東病院 院長



島田 和明
中央病院 院長

